



ROKKO NEWS

http://www.rokkorugby.com

特定非営利活動法人
六甲クラブ

2018年シーズン開幕号

今年も近畿リーグ爆勝発進！

六甲ファイティングブルが今年も快進撃を続けている。11月4日現在、チームは近畿リーグを順調に4連勝。25年連続25回目の全国大会出場に王手をかけた。2月の全国大会決勝では北海道バーリアンズに10-25での完敗。2年目のスキッパーとなる中村圭佑主将(29)関学大は、春シーズンからメンバーに強く「意識改革」を訴え続けている。6年ぶり7度目の日本一奪回へ、さらなる飛翔を誓った。

リーグ戦4試合で54トライ339点。春先の不振がウソのように、六甲ファイティングブルが今年も近畿リーグの連勝街道を走り続けている。このリーグ戦、試合前の円陣で中村主将は「特に僕からは言うことない」と、多くは語っていない。メンバーには春シーズンからずっと「我慢」「意識」を訴え続けているからだ。チームの戦い方に

どれだけメンバーが意識してプレーできるか。試合に出るためにどれだけ個人が努力するか。

「日本一」。六甲クラブの歴代の主将誰もが、毎年掲げてきた目標に、中村は「打倒北海道バーリアンズ」をサブタイトルにつけた。

2月に行われた昨季の全国大会決勝、10-25の点差以上に、中村は完敗を感じていた。「フィジカルで劣り、僕たちはまだ基本ができていなかった。この悔しさを(選手は)ずっと持ち続けてほしい」。

特に重要だと訴えるのはメンタル面だ。強敵と戦う時、シンドイ時間帯の時、いかに強い心を持って立ち向かっていくか。

「常に課題や意識を持って、練習や試合に取り組んで欲しいです。ただグラウンドに来て、練習メニューをこなすんじゃない。僕らは普通の社会人だけど、常に自分に厳しく、ラグビー選手の自覚を持ってほしいんです。」

大学や社会人チームと違って、自らが会費を払い、練習や試合環境を構築していくのがクラブチーム。仕事などを言い訳にする「抜け道」はいくらでもある。だがその中で真剣に日本一を求めていくのが六甲クラブであり、多種多様なラグビー人生を歩んできた者たちが集まってくる。

しかしここ5年、全国大会で関東の強豪の厚い壁に跳ね返され、日本一の座から遠のいている。選手たちのポテンシャルは引けを取らないが、「もう一步」のところで涙を飲んでいるのはなぜか？自分たちに足りないものは何なのか？

それを中村主将は言葉ではなく、プレーで伝えて

いるように思えるのだ。決して大きいとは言えない体で、突破口となる激しいアタック。相手を根元からなぎ倒すアタックを繰り返す。強い気持ちと意識がギッシリ詰まった主将のプレーに、仲間たちも続いていく。

全国大会まであと2カ月弱。チーム、そして選手個人個人の「意識改革」はまだ道半ばだ。さらなる可能性を秘めたチーム力はここから一気に上昇していく。

六甲ファイティングブル。今はただ走り抜けるのだ！



ROKKO WAY!

日本一へ 突っ走れ!

10月14日のスーパーstars戦で豪快な突進を見せる中村主将。

近畿リーグ①	9月9日(天理・親里)	六甲ファイティングブル	70 - 7	奈良ムース
近畿リーグ②	10月14日(京都吉祥院)	六甲ファイティングブル	81 - 7	スーパーstars
近畿リーグ③	10月21日(天理・親里)	六甲ファイティングブル	157 - 0	京都フリース
近畿リーグ④	11月4日(加古川・日岡山)	六甲ファイティングブル	31 - 12	芦屋

2018年度クラブ目標

日本一!

2018年度 チームスローガン

Challenge!

一打倒!北海道バーバリアンズ

2018年度六甲ファイティングブル新体制

主将	中村 圭佑 (25歳 東福岡→関学大)
副将	安部 都兼 (28歳 甲南→関学大)
FWリーダー	上田 陸 (25歳 常翔学園→帝京大)
	福島 清登 (33歳 筑紫台→九共大)
BKリーダー	谷 晋平 (29歳 島本→天理大)
FWコーチ	北迫 孝治 (大東大)
BKコーチ	由良 康美 (帝京大)
G M	榎村 政身 (柏原高)
総監督	東田 哲也 (同大)
理事	中島誠一郎 (早大)

この辺りから新加入選手の台頭、稼働選手も多くなり、9月に始まった公式戦では連勝街道をばく進している。しかし、全国大会で対戦する関東のチームに比べ、まだまだ足りない面も多くあるのも事実。北迫コーチは「自分のスキルやテクニク、メンタル、フィットネスが今のままでいいのか?選手一人一人が考えて練習や試合に臨んで欲しい。もっともっとレベルアップができるはず」とさらなる上積みを目指している。



この悔しさを忘れなさい...

「Challenge!」のスローガンを掲げてスタートした春シーズン。だが内容はお世辞にも褒められたものではなかった。毎年春先は異動などで選手の入替わりが激しく、チームの方向性に苦しみ時期だ。14日の大体大との練習試合。今季初となる15人制で14-41と完敗した。全国大会からわずか2カ月。スクラップビルドの難しさを痛感する。

新チームがスタートして以来、どこもなく感じる雰囲気「ゆるさ」。その不安が的中したのが、5月27日に行われた「兵庫県セブンズ」だった。多くの選手に経験を積ませようと、若手と全国大会の出場機会が少ない選手を中心のメンバーを組んだ。予

選は順調に勝ち進んだが、決勝戦では主力に思わぬケガが続く。芦屋クラブに7-12で敗れてしまう。セブンズとはいえ、芦屋に敗れることは、クラブ史上初めての屈辱だった。「どん底」に落ちたのが6月10日の名古屋クラブとの定期戦だった。全国大会決勝と同じ会場で、名古屋クラブに12-20と敗れた。完敗だった。この試合でゲームキャプテンを務めた安部副将は振り返る。「メンバーがほぼ15人しかいなかった、という以前に普通に弱く負けました。これが今の僕らの実力です。昨季、全国大会で決勝まで行ったことで、自分たちの力を過信してはいませんか?」

「そんな相手でも、どんなメンバー構成でも、六甲は勝たなければアカンチームやと思うんです。安部副将は言う。「いつも洗濯されたジャージ一式、備品がちゃんとそろい、サポートしてくれるトレーナーや学生、裏方で働いてくれているマネージャー...。それが当たり前の雰囲気になってるけど、全然当たり前じゃありませんよ。本当に多くの人が裏で支えてくれる。僕らは勝利で応えないといけない。」

もちろん、悪かった面ばかりではない。6月23・24日に行われた北海道セブンズでは例年通りの厳しいスケジュールながらも先制メンバーは大奮闘。日本代表候補のSDSには完敗したが、国体チームの福井にラストワンプレーまでリードする激戦を展開。2日目も奈良、北海道を破り、ポウル優勝を獲得した。

春シーズン総括

苦難の春乗り越え...上昇!

分たちを大いに戒める一戦になった。「どんな相手でも、どんなメンバー構成でも、六甲は勝たなければアカンチームやと思うんです。安部副将は言う。「いつも洗濯されたジャージ一式、備品がちゃんとそろい、サポートしてくれるトレーナーや学生、裏方で働いてくれているマネージャー...。それが当たり前の雰囲気になってるけど、全然当たり前じゃありませんよ。本当に多くの人が裏で支えてくれる。僕らは勝利で応えないといけない。」



5大会ぶり決勝も...バーバリアンズに完敗

第25回全国クラブ大会決勝
北海道バーバリアンズ
25
|
10
六甲ファイティングブル
(ハロム球場)

5大会ぶり13度目の決勝の舞台に立った六甲ファイティングブルだったが、思うようには自分たちの力が発揮できなかった。北海道バーバリアンズの個々の力強さを痛感した一戦だった。前半、風上で得点を重ねたいところだったが、久々の決勝舞台で、選手たちの動きも固く、チャンスでミスを連発。リズムをつかむことができない。劣勢が予想されたスクラムを押し返すが、7人制日本代表の197歳のジョセ・セルや198歳のLOチョンキツトなどの大型FWの重いブレイクダウンに苦戦が続く。0-6からの後半、外国人選手中心に、3トライを喫した六甲は終了間際に2トライを返すものの無情のノースайдとなった。「風上の前半に点を取れなかったのが全て。キャプテン責任を感じます」(中村主将)

「スコア以上に完敗の感が強い。FWはセットプレー、BKはキックミスで前半敵陣で攻める時間が少なかった。外国人選手のプレッシャーが強くて思うようにプレーができなかった」(北迫コーチ)「5年前の決勝戦を経験

プレーヤー・サポーターも募集しています!

個人後援会員	団体・法人会員	ユニフォームロゴ・スポンサー
年間会費 2,000円	年間会費 1口10,000円 (原則2口以上)	年間50,000円~(要相談) (原則2年契約)
予定している特典 ・会報の送付 ・試合、行事などの案内 ・ファン集いの案内、優待など	予定している特典 ・試合、行事などの案内 ・後援企業(団体)交流会 ・企業(団体)広告の掲載 ・ファン集いの案内、優待など	予定している特典 ・ジャージ・パンツなどにロゴ ・団体、法人会員と同等の特典 ※詳しくはお問い合わせください。

お問い合わせは 特定非営利活動法人 六甲クラブ サポーター会員募集事務局 (担当:山崎秀子) お問い合わせはEメールにてお願い致します。 e-mail:rokkoclub@hct.zaq.ne.jp FAX:079-243-1156

HPからお申し込みください。 <http://www.rokkorugby.com>

サポーターの年会費と特典内容

自分たちを見つめ直したい。2018年の全国大会前にもう一度戦から何を浮かんで立ちあがるか。そしてこの悔しさを忘れずに持ち続けることができるのか? 勝負は負けたから面白い。この敗戦から何を浮かんで立ちあがるか。そしてこの悔しさを忘れずに持ち続けることができるのか? 自分たちを見つめ直したい。2018年の全国大会前にもう一度